

## (6) 生物多様性にせまる危機

これまでみてきたような千葉県内で人々によって育まれてきた「生命いのちのにぎわいとつながり」(=生物多様性)は、近年悪化しています。この生物多様性に直接せまってくる危機として最近問題となっているのは1)人が身近な自然を利用しなくなること、2)外来種の増加、3)地球温暖化があります。



ニホンアカガエル (絶滅危惧種)

### 1) 人が身近な自然を利用しなくなること

1960年代頃、千葉県の農村地域では人口も多く、活気に満ちていました。しかし、1970年代以降、農村から都市部へ人々が流れだし、農村地域の高齢化と人口減少がみられるようになり、それまで利用してきた雑木林や田畑、竹林、ため池などが利用されなくなりました。人々が維持してきたこのような環境にくらすアカガエルやカタクリなど里山の生きものが、急激に姿を消しています。

### 2) 外来種の増加

千葉県内の沼や池、河川そして森林で、人間の手によって野外に放された外来種が数を増やしています。そんな外来種について、考えてみましょう。(28ページにも外来種の説明があります。)

#### Q) 外来種ってみんな悪いの？

A) そうとは限らないよ。だけど、もともといなかったのだから、「何らかの問題がある」と考えられているんだよ。

その問題というのは・・・

1. 生態系への問題：他の生き物を食べる。すみかをうばう。
2. 人体への問題：人を傷つけたり、病気の原因となる。
3. 農林水産業への問題：農作物や魚などを食べてしまう。



外来種アメリカザリガニ (千阪光義氏撮影)

#### Q) 外来種はみんな外国から来たの？

A) これも、そうとは限らないよ。たとえば、西日本にいるゲンジボタルは2秒に1回光るけど、東日本にいるものは4秒に1回光ることがわかっているんだ。西日本のゲンジボタルは東日本から見れば、外来種になるんだ。自分では、遠くへ移動できない生き物は、同じ種類でも住んでる場所が違うと、いろいろと違うことがあるんだよ。

これは、地球の長い歴史の中でできてきたものだから、人の手でかき混ぜてしまうのはよくないんだ。日本にはいたけど、もともとそこにはいなかった生き物のことを「国内外来生物」と言っているんだよ。



外来種アカゲザル (池田文隆氏撮影)

### 3) 地球温暖化

日本の年平均気温は100年あたり約1.13℃の割合で上がってきています。特に1990年代からは平年より高い気温の年が多くなっていて、世界各地でも同様な場所が多く、地球が温暖になってきているようです。これは、人間が出す二酸化炭素などの温室効果ガスが原因となっている可能性が非常に高いのです。このことは千葉県も含めて地球上の生きもののくらしに影響するはずですが、科学的な証明が難しいのが現状です。